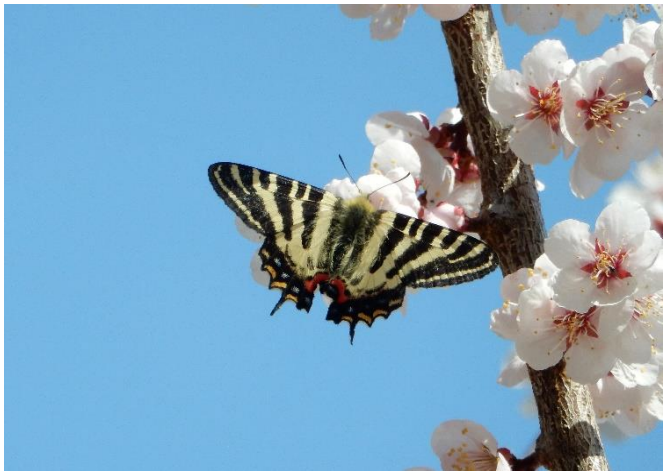
和名	分類	特徴ほか	会える場所			
			ハイム（中野島）	多摩川土手（中野島周辺）	生田緑地	その他
ギフチョウ	アゲハチョウ科	別名「春の女神」	×	×	×	東北～中部（東京では絶滅）

成虫発生時期（月）											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

○ 食草　　食樹	発生回数/年	越冬形態
カンアオイ	1	蛹（さなぎ）



相模原市　4月1日（2018年）　ウメ吸蜜。ウメが終ると順次サクラへ

相模原市　４月6日（2022年）　タチツボスミレで吸蜜

桜の開花に合わせるように里山に出現する美しい小型のアゲハチョウで「春の女神」とも呼ばれます。日本固有の蝶ですが近年減少をたどり生田緑地を含むハイム周辺では見られません。従って蝶の季節の幕開けは、女神に会いに相模湖の奥まで足を伸ばすのですが天気に恵まれ温度が上がると桜、ツツジ、あるいはスミレなどで吸蜜する姿が見られます。
一方、日本にはギフチョウと一目では見分けがつかないほどよく似たヒメギフチョウという別種の蝶がいて、この２種はそれぞれの食草、すなわちカンアオイ類（ギフチョウ）、ウスバサイシン類（ヒメギフチョウ）の分布境界に沿って「リュードルフィアライン」（リュードルフィア　Luehdorfia　はギフチョウの学名。概ね、フォッサマグナに沿ったライン）と呼ばれる境界線の西と東に棲み分けています。尚、奇妙な名前ですが採集されて新種の蝶と確認されたのが岐阜県であったことからついた名前です。
虎のような特徴のある羽模様ですが、ヨーロッパ南部にヨーロッパタイマイというアゲハチョウ科の仲間がいて尾（尾状突起と呼びます）の長短の差はありますが羽の模様の構成がよく似ているので初めて見たときは驚きました。

長野県北安曇郡白馬村　4月26日（20204）　カタクリで吸蜜

ヨーロッパタイマイ
フランス・アヴィニョン近郊　7月1日（2017年）

相模原市　3月26日（2021年）
タチツボスミレに飛来

相模原市　3月28日（2022年）
山頂で日光浴。周辺には花なし

↓　相模原市　4月1日（2023年）
山頂で日光浴

↑　相模原市　4月6日（2022年）
山麓の樹間を飛ぶ

相模原市　3月26日（2020年）　→
サクラで吸蜜後、ヒバの葉で
休息する。裏がよく見える

ヒメギフチョウ

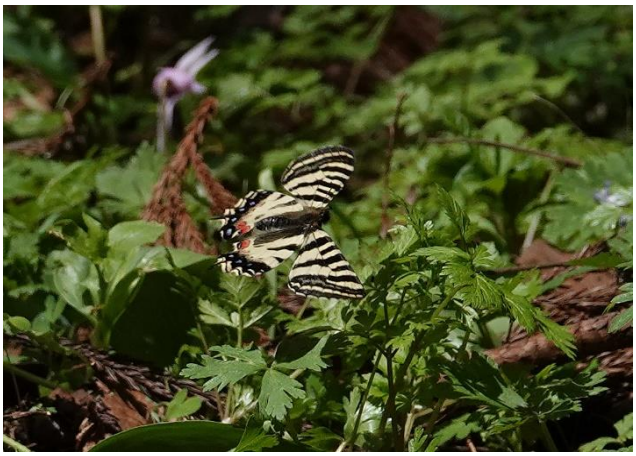
↑　スミレで吸蜜するヒメギフチョウ
長野県北安曇郡白馬村　4月25日（2024年）
尚、ギフチョウとヒメギフチョウは冒頭の説明通り概ねリュードルフィアラインと呼ばれる線の東西で棲み分けているが、撮影地の白馬村ほかいくつかの地域では混棲している

→　同　カタクリで吸蜜

↓左　枝垂桜に飛来するヒメギフチョウ
長野県北安曇郡白馬村　4月26日（2024年）

↓右　下草にとまる　4月26日（2024年）

ヒメギフチョウの産卵



↑左　低空飛翔で旋回しながら食草ウスバサイシンを探す母蝶

↑右　ウスバサイシンを発見、とまる

←産卵中

長野県北安曇郡白馬村
4月26日（2024年）

←母蝶飛立ち後

12個の真珠のような卵

長野県北安曇郡白馬村
4月26日（2024年）